

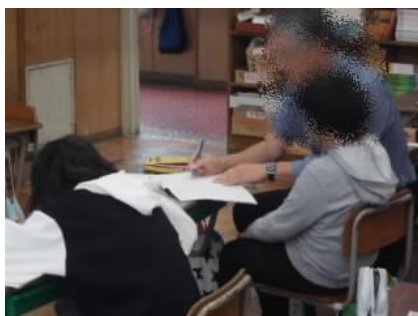
I 「自己発揮できる子どもの育成」に向けた授業改善・学級経営

① 子どもとつくる授業(教え込み→学び合いへ)② 良さを認めあえる学級集団(自分の居場所がある学級・学校)

☆自己発揮の土台作りから子ども同士が学んでいる授業☆キラリ☆>

◇校長が参観させてもらっている日々の何気ない授業から(自己発揮に関わって)

<3年算数 個別支援から自己発揮へ 長さの問題>



個別指導する人を決めておいて、1時間のうちに複数回素早く支援に回っている

基本的な方法(kmをmに直してから距離の計算をする)をみんなで確認してから、自分で問題を考えて自分で答えていく。その後は活用段階…自分で問題を作る時間(みんな集中して取り組んでいる様子が見られた。子ども達は創作的な活動は大好きである。/問題づくりの授業では条件をあらかじめ示しておくこと、のちに友達にも解いてもらうとうれしくなる。)自己発揮している姿…立ち上がって発言、先生に間違いを教えてくれた児童、わかると自己発揮したくなる。

<4年算数 教えている自己発揮 それを受け入れている姿 やるべきことが明確な時>



わからないところを近くの児童へ男女関係なく教えている姿は、自己発揮して「教えたい伝えたい!」という気持ちが行動に出た自己発揮につながる。

(自分の居場所や友だちの居場所が学級の中にあり信頼関係があることが前提となっている)

<2年体育 体づくり 準備運動>



・一人一風船で「87 88 89・・・」と数えながら落とさないように運動している姿は、みんな意欲的に自己発揮している姿でした。時にはひざを曲げてしゃがみ、時には上を見てジャンプ!時には風船を追いかけてダッシュ!とても体づくり運動として自己発揮したくなる題材ですね。